

**令和2年度 第2回あさお福祉計画及び
地域包括ケアシステム推進会議 議事録**

【会議の概要】

開催日時	令和2年8月3日（月）13時00分から15時00分まで
開催場所	麻生区役所4階 第1会議室
出席者氏名	<p>(1) 委員 吉松委員長、森副委員長、村井委員、伴委員、原委員、吉垣委員、大川委員、河村委員、依田委員、日暮委員、高橋委員 ※今村委員、植田委員は欠席</p> <p>(2) 事務局 高階事務局長、大塚地域みまもり支援センター副所長、端坂地域支援課長、石原児童家庭課長、大和田高齢・障害課長、今井保護課係長、田中衛生課長、寺嶋保育所等・地域連携担当課長、高石危機管理担当課長、沖本企画課長、野口生涯学習支援課長、森田地域ケア推進課長、白勢地域ケア推進課係長、高橋地域ケア推進課主任、上原地域ケア推進課担当</p>
議事	<p>[審議事項]</p> <p>(1) 第6期麻生区地域福祉計画の策定について ア 第6期麻生区地域福祉計画の骨子(案)について(資料1-1、1-2) イ 第6期麻生区地域福祉計画の具体的な取組と重点項目(案)について(資料2) ウ 第6期麻生区地域福祉計画策定に向けた評価指標(案)について(資料3) エ 第6期麻生区地域福祉計画の構成(案)について(資料4) オ (仮称)地域包括ケア圏域の概要(案)について(資料5) カ 第6期麻生区地域福祉計画 策定スケジュールについて(資料6)</p> <p>[報告事項]</p> <p>(2) 地域包括ケアシステム推進に向けた取組について コロナ禍における地域の取組について ア 高石地域包括支援センター (資料7) イ 麻生区民生委員児童委員協議会 (資料8)</p> <p>(3) その他</p>

配付資料	委員名簿 座席表 資料1-1 第6期麻生区地域福祉計画 骨子(案) 資料1-2 川崎市地域福祉実態調査結果の経年変化について 資料2 第6期麻生区地域福祉計画 具体的な取組と重点項目(案) 資料3 第6期麻生区地域福祉計画策定に向けた評価指標(案) 資料4 第6期麻生区地域福祉計画 構成(案) 資料5 (仮称)地域包括ケア圏域の概要(案) 資料6 第6期麻生区地域福祉計画策定スケジュール 資料7 コロナ禍における地域の取組について (高石地域包括支援センター) 資料8 コロナ禍における地域の取組について (麻生区民生委員児童委員協議会)
傍聴人の数	0名
公開・非公開	公開

【議事要旨】

発言者	発言要旨
事務局	次第1 開会 司会挨拶
高階所長	次第1 事務局長挨拶 皆様こんにちは。あさお福祉計画及び地域包括ケアシステム推進会議の事務局長を務めさせていただいております、地域みまもり支援センターの高階と申します。本日はお忙しい中、またお暑い中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。長い梅雨があけて夏本番となっておりますが、新型コロナウイルスの感染者数が増えておりまして、懸念が増加しております。 皆様におかれましても、注意を払いながら日常生活や地域における活動をされていることと存じます。 行政におきましても、with コロナということで、どのように対策をし事業を進めていくかなどを、今模索している所です。本日もさまざまな対策をしながら、会議を進めさせていただきたいと思っておりますのでよろしくお願ひしたいと思ひます。幅広い視点から皆様のご意見をいただければと存じます。どうぞよろしくお願ひします。 以上簡単ではございますが、開会のご挨拶とさせていただきます。
事務局	次第1 事務局説明 続きまして、本日の資料について事務局から確認させていただきます。 ○配布資料説明 ○事務連絡 ※会議と会議録の公開、傍聴者数、出欠、麻生区町会連合会の欠員について
吉松委員長	皆様こんにちは。今回も委員長ということで議事進行をさせていただきます

	<p>吉松です。本日は今年度2回目の会議となりますが、前回の会議で行いました麻生区における地域課題の確認と令和元年度の評価等を踏まえ、第6期麻生区地域福祉計画の具体的な取組について、議事を進めてまいります。</p> <p>また、会議の後半部分では、地域包括ケアシステム推進に向けた取組として、新型コロナウイルスを警戒する状況下での地域福祉活動の取組例の紹介を予定しています。</p> <p>皆様のご協力をいただきながら本会議が円滑に進行するよう、努めてまいりたいと考えておりますので ぜひ活発なご意見をお願いいたします。どうぞよろしくをお願いいたします。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>それではさっそく本日の議事に移らせていただきます。ここからの進行につきましては、吉松委員長にお任せしたいと存じます。</p>
吉松委員長	<p>それでは、次第に従って議事を進めてまいりたいと存じます。議事の1について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>議事〔報告事項〕</p> <p>(1) 第6期麻生区地域福祉計画の策定について</p> <p>ア 第6期麻生区地域福祉計画の骨子(案)について</p> <p>※資料1-1に基づき説明</p>
吉松委員長	<p>ありがとうございました。ただ今の説明に関して、どなたかご意見、ご質問はございませんか。</p>
村井委員	<p>非常にしっかりと根拠のある形でまとめていただきまして、ありがとうございます。基本目標1と基本目標2を横断的に見てみると、3年後の姿というところですが、1も2も情報が重要な話になっています。なぜかと言うと、幅広く区民が地域福祉活動に参加するためには、そもそも区民が参加をしやすくするための情報提供がないと、結果的に、自分の地域にどのような地域福祉活動があるのだろうか、どうやったら参加できるのだろうかということが分からない。これらを知らせる機会をコーディネートと言ったほうがいいのでしょうか、そういった参加とかコーディネートの場づくりが、どうやら必要そうなどころが見えております。</p> <p>こういう意味で言うと、身近な、日常生活圏域の中で参加の機会が必要になってくるということです。そうすると地区をまず整理した上で、それぞれの地区ごとに判断すると思いますが、地域福祉活動一覧とプラス、それに参加するためにはどうしたらいいかという情報提供を定期的に行っていく仕組みが、ますます重要になるというところを感じました。</p> <p>あとは、さすがというか、全体に数字が高めに出ているので、やっぱり強い。知識も経験も、そして意欲も高い。だとすれば、そういった人達が誰かを、ウィズ・プラス・ワンみたいな形でもう1人を誘って引っ張り出すという、おせっかい活動をちょっと戦略的に展開していくといいと思います。これだけリソースがあるので、新しい人に訴求するのではなくて、今いる人が身近な人を誰か1人つなげていくという戦略のほうが、麻生には合っているかもしれないと</p>

	<p>いうイメージを持ちました。</p> <p>知らないとうにもならないのですが、知れば気にしてくれるし、知れば考えてくれるし、知れば口を出し、具体的に動いてくれ、最後は主体性を持って活動してくれるという可能性が出てきています。ぜひ、分かりやすい身近な地域情報と、福祉への参加機会を徹底的にコーディネートするシステムを、今回はしっかりと作り上げていただけたらと思います。</p> <p>もちろん既存のものがありますので、まずそれをブラッシュアップしていくということ、そこを改善していくことがポイントかなと思います。以上です。</p>
吉松委員長	<p>ありがとうございました。それでは次に議事（１）のイの説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>議事（１）イ 第6期麻生区地域福祉計画の具体的な取組と重点項目（案）について</p> <p>※資料2に基づき説明</p>
吉松委員長	<p>ありがとうございました。ただ今の説明に関して、どなたかご意見、ご質問はございますでしょうか。</p>
依田委員	<p>柿生地区社協の依田と申します。これをいただき第5期の計画を読んだりする中で、言葉をどう表現するかは難しいなというのが率直な気持ちです。先ほど地域福祉実態調査結果の中で3つ目の3本目の柱、市民調査結果の中に地域包括ケアシステム理解度というのがあったと思います。これは本当に申し訳ないですけども、数字が低過ぎて、私達も自戒を込めてこの数字を受け止めています、本当に何を求めているのかということが分かりにくいです。</p> <p>今、ご提案をされた表で、改善されているところは勿論ありますが、地域の人材、地域の福祉、地域の活動、この言葉が何を指しているのかが分からないのです。地域人材、これは何の人材なのか。この言葉をまず統一して整理するだけでも、見えてくるものがあるのではないかと感じます。</p> <p>この麻生区地域福祉計画のテーマは、福祉という言葉を中心に掲げてくださっています。ただ暮らしやすい町というよりも、「福祉の視点を持ったまちづくりを麻生区はするぞ」という宣言をしていることは、とても活動しやすくなるなど思っておりありがたいんですが、中を見ると、その福祉のまちというのが統一されているのかどうかと思いました。</p> <p>この辺りの言葉の定義をやはり整理して書き込んでいくほうが、住民さんが、何をしていたらいいのかということが分かると思いました。</p> <p>基本目標1「区民が主役の地域づくり」の、具体的な取組、基本政策、この3つの並びが実は割と分かりにくいのではないかと思います。区民が主役の地域づくりとは、本当のところは何を指すのでしょうか。答えを持ってくればよかったんですけども、なかなかそれが難しく、もし可能なのであれば、この言葉を整理していただければ、私たち、福祉の現場でやっている職員はこういうものなのだ、地域住民さんは福祉といった場合、どこにどう関わればいいんだなということが、明確になっていくのではなからうかということで、ご指摘をさせていただきました。</p>

	<p>もう一つの視点としては、麻生区の社協さんの位置付けの問題です。今、説明いただいた表の中では、一番下に関係団体の連携ということで書かれていますが、前回の説明で、今まではそれぞれの意見を交換するという形でしたが、今回は社協さんと共同で計画を作っていくとご提示されていたと思います。この中身を見れば、本当に社協の力が求められているいい目標だと思いますので、これを社協さんが1行になっている形ではなく、もう少し麻生区・社協との連携をうまく書けるといいと感じております。</p>
吉松委員長	<p>ありがとうございました。ただ今の質問に対して事務局の方から何かありますか。</p>
事務局 (地域ケア 推進課)	<p>ありがとうございました。貴重な意見として受け止めさせていただいて、今後の検討に役立てさせていただきたいと思っております。地域福祉や地域活動という言葉は、住民の方にとって具体的なイメージが持てないというのは確かにそうだと思います。こちらとしては地域における課題、地域の特性によって、それぞれさまざまな取組なり活動が行われているということで、特定のものに絞り切れないというところは確かにございます。</p> <p>そもそも地域福祉とは何なのかと言ったときには、私どもの立場では、地域包括ケアシステムを進めるということです。その中で、子どもから高齢者、障害者の方も含めて、住み慣れた地域で安心して引き続き暮らすことのできるまちづくりを進めるということで、それに寄与する取組なり活動は全て地域福祉ということで括らせていただきます。</p> <p>それについて今の具体的な取組ですが、地域活動等いろいろなものに対して、どういう形で具体的な支援ができるのかというところを書き込んでいきたいと思っております。定義というところを、計画にある程度、地域福祉の考え方とか活動とは、というところを書き込んだ上で、具体的にそれをどうするか説明できれば、もうちょっと区民の方に分かりやすくなると思います。</p> <p>確かに、区民目線で分かりやすい書き方にしていきたいと思っておりますので、ご理解いただければと思います。</p>
吉松委員長	<p>ありがとうございました。</p>
村井委員	<p>地域福祉活動計画と地域福祉計画が連携するというのはもう当然になっているわけですが、横浜の各区のモデルを見ると、第5期計画上の具体的な取組のさらにもう一つ右側に、社協さんの事業として、これがどうなっているかという形で、もう一項目あるケースが見受けられます。</p> <p>全部社協さんがこれに関わるとなると、職員があと3倍ぐらいいないとできないと思いますが、その中でも、特に関わるとか、もしくは計画上の具体的な取組の中に星マークを付け、マークが付いているのは社協さんとの連携協働対象ですよと表示する、もしくは表の中の右側にもう一項目付け足す、そんな戦略が今後はあるといいかなということです。</p> <p>そうするとお互いの役割分担も見えてくるし、その取組をするに当たり、それぞれの立ち位置と目指すものの共通性が定義できていくと思いました。</p> <p>それから、「区民が主役の地域づくり」という一番上の基本目標、左上の所</p>

	<p>です。これが基本施策として、この3つで必要十分なものなのかという声や、分かりにくさがあるかもしれないという点が依田委員さんからありましたが、漏れがなくてダブリがない関係になっているかは難しい問題があります。</p> <p>基本的には、区民が自分達の問題に自分達で気付き、自分達でできることは自分達やるけれども、できないことは関係機関に相談して一緒に解決していくということを繰り返し継続できるような仕組み、と同時に、それを支えるために、非常に抜本的ですけれども、まずは健康でなければどうにもならないというところがあります。健康という言い方も、さまざまな予防施策ということもできますが、ここは外せないような気がします。人材が育成され、そして地域福祉活動が包括的なものになっていますが、そこが発展し、それを支える大原則である健康な住民の人たちがいれば、それなりに説明がつくので、いいかなと思います。</p> <p>ただ、そこにもう1点、この専門分野の相談支援体制の充実と合わせて、「区民本位の福祉サービスの提供」として、相談できる仕組みを全ての中にしっかりと位置付けていかないといけないと思います。</p> <p>主体となったとしても、主体というのは孤立することでもなく、誰にも相談しないで動くことでもなく、いろいろな人と相談しながら自治を進めていったり、連携を進めていったりするということですので、根底にある相談できる関係づくりというのはすごく重要だなと思います。</p> <p>併せて今日の話で言うと、やはり情報提供とか情報を共有するという、この気付きがベースになることです。問題を発見するといっても、情報がなければ問題そのものに気付けない。どうしても区民一人ひとり、自分たちの視野の中でしか生活されていませんから、その地域の課題といっても、俯瞰してものを見るという機会はなかなか取れません。</p> <p>そうすると、地域包括支援センターさんなどが持っている、ちょっと俯瞰した情報を、地域にどれだけフィードバックしていけるか、他にも、障害者関係や地域のいろいろな相談センターが、障害者の課題や子どもの課題をフィードバックするという仕組み、情報提供と相談という機能がすごく重要になってきます。それを意識したほうがいいという点だけ、提案したいと思いました。</p> <p>でも以前に比べれば本当に具体化した内容で、取組案とか、さらに具体的な計画上の取組ができていますから、随時、皆さんの意見をいただいて、第6、7、8期と、どんどん続いていくことなので、急に全部をいきなり完璧にするのは難しいと思いますが、ブラッシュアップしていけばいいと思っています。ちょっと抽象的で申し訳ないですが、以上です。</p>
吉松委員長	ありがとうございます。どなたか他にございますか。
日暮委員	<p>ちょっと戻るようで申し訳ないです。いただいた資料の1-2、いろいろと調査やアンケートを集約されたのを、私は非常に興味深く拝見させていただいているんですけど、この数字が高いところに重点項目が示唆されているんじゃないかと思います。また、これで見ると、ボランティアもいろいろ入り込んでくるようです。</p>

	<p>先ほど依田委員からお話があった、人材育成にも該当すると思うのですが、どうすればこういうボランティアに参加できるだろうかとか、地域の問題解決をどのようにすればいいのかという手法、そういうものについて教えてもらいたい。そうすれば地域のこまごました問題がいろいろ具現化し、解決されていくんじゃないか、こんなふうに思っております。</p> <p>いわゆる問題解決のための取扱の手法ですか、推進会議ではノウハウあるいはヒントという表現をしております。そういうものをいろいろと、これに対してはこれだというような、テーマ（問題点が）決まったら、すぐにあの手法を選べばどうだと示すことが有効だと思うのです。そういうものも平行して何かやっていると、非常に地域のこまごました問題解決の、一つの手掛かりになるのではないかと考えているわけです。以上です。</p>
吉松委員長	ありがとうございます。ただ今のご意見に関して事務局からありますか。
事務局 (地域ケア 推進課)	<p>ありがとうございました。地域福祉実態調査の結果を踏まえまして、それぞれ住民の方の意識の高さ等については認識しておりますので、それをさらに充実、強化するための仕組みをとというのは、実際に具体的に事業を行う所管課のほうでも受け止め、今後の事務執行に役立ててもらいたいと考えております。</p> <p>今ご指摘をいただいた地域の課題が何だとか、今後どうしていけばいいのかという示唆につきまして、私ども麻生区役所では、既にご存じだと思いますけれども、「ちいきのちからシート」というものを田園調布学園大学の村井教授にもお助けいただいております。</p> <p>「地区カルテ」という地域の統計情報をまとめたもので、数的な、定量的な地域の特徴をお示ししつつ、「ちいきのちからシート」の中で定性的な、地域の方が実際にお住まいになっている中でどういうことを感じていたり、どういう地域課題を持っているのか、という認識を皆さんで共有するような仕組みとして、この「ちいきのちからシート」を活用させていただき、「地区カルテ」と併せて行政と区民の方々の現状認識を共有させていただいております。その上で、地域課題をどう解決していけばいいのかについては、気付きなり、地域課題に対して具体的な取組事例を提示する「取組モデルシート」というのも先生のほうで開発をいただいております。</p> <p>そういう具体的な課題に対して、どういう取組ができるかという情報提供もしながら、今後も進めていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。</p>
吉松委員長	ありがとうございます。
吉垣委員	<p>すみません。20番、「災害対応力の強化支援」のことですけれども、今は災害の多い時代、また感染症がこの時期はあつたりしますので、避難所の運営の仕方を考える時期に来ているのではないかなと思っております。どうやればいいのかというのは分からないのですが、やはり今一番必要なものを入れておくとか、そういう感じで自主防災組織の人たちと考え直す時期ではないのかなと思っております。</p> <p>あともう1点、16の「専門分野の連携体制の強化」ということを新しく入</p>

	<p>れていただいて、すごく良かったなと思っております。児童の虐待とか、高齢者の虐待とか、いろいろあるとは思いますが、そこには必ず家庭の問題が入ってくると思います。児童だけではなく、区役所全体でいろいろな側面から家庭に入っていれば、すごくその家庭が助かるのではないかと思いますので、その分、体制強化はすごく良かったなと思っております。以上です。</p>
吉松委員長	<p>ありがとうございました。事務局の方ございますか。</p>
事務局 (危機管理担当)	<p>危機管理担当課長の高石でございます。コロナ禍の中での避難所については、大変皆さんも気になっていることだと思いますけれども、川崎市は先般、感染症対策を踏まえた避難所についての指針を示したところです。今、7月ぐらゐの大雨の災害状況を見ますとイメージするのは、体育館の中にいろんなパーテーションとか、段ボールベッドとかいう場面で、テレビで見たりするところが多いかと思いますが、実際は物質面に対して、ああいったものを用意するところまでなかなかいきません。</p> <p>震災においては、国の支援でそういったものが入ってきますが、川崎市では風水害時の避難所の対応として、健常者と濃厚接触者を接触させないような取組、他には感染症対策で一般的に三密にならないとか、手洗い消毒とか、マスク着用とか、そういったことをしっかり踏まえた上での災害対策ということを、まず始めていくところからやっていきたいと思ひます。</p> <p>自主防災組織への周知についても、今月は避難所運営会議の全体会議も予定されておりますので、そちらでも説明をしながら順次、顔の見える関係の中で意識合わせをしていくことを考えております。以上です。</p>
吉松委員長	<p>ありがとうございます。それと16について。</p>
事務局 (地域ケア 推進課)	<p>「専門分野の連携体制の強化」を加えたことについて、ご意見いただきましてありがとうございます。これまで、こちらのほうの推進会議の中でもいろいろご指摘をいただいた中で、それぞれ11から15の縦割りの事業については確かに進んでいて、充実強化をしているというところについては今までのイメージでいたるところです。それに横串を刺して、行政が一体となって一つの課題に取り組めるような体制、また区内における関係機関や団体の皆さんと連携協働して課題を整理し、取組をしていくというところの重要性をご指摘いただいた結果、こちらのほうに入れさせていただきました。</p> <p>元々専門職の皆さんや専門機関と連携する会議・研修等については、実際にはやっているところも結構あります。ただ、それが見える化されておらず、どこでどんな形でやられているのかは、実際に出席している人や関係している人しか見えないような状態であることが多いので、こちらで頭出しをし、具体的にどういふネットワークで、どういふ連携会議をやっているのか、どういふ検討をしているのかということも、お示ししたいと考えております。</p>
吉松委員長	<p>ありがとうございます。よろしいですか。</p>
依田委員	<p>ありがとうございます。しつこいようでしたら申し訳ないですが、先ほど基本目標1の所で村井先生が、区民が主役である基本は健康だから、そういう施策が入っているのはいいんじゃないですか、とおっしゃっていただいたのは、</p>

	<p>そういう理解もできると本当に思っていますが、きっと書かれた方々は、ある事業を中心に見ていらっしゃるのではないかと思うのです。</p> <p>例えば1のほうの具体的な項目で、2と3は普遍的に書かれています。1は重点で子育てをやるということです。これを特別にやらなきゃと思っているから書いていると思いますが、この間の説明を聞いていると、子育てだけじゃない、地域活動全般をどう取扱うかということが必要なもので、そのうちの一つが立ち上がってきってしまうと、私自身は読んでいて分かりにくいのです。</p> <p>それで、例えば括弧3の下の方の、「地域福祉活動を担う人材の育成と活動の推進」というところで言うと、やはり6番の地域人材は幅広い表現です。それに対して、7番が健康づくり、8番が子育て。私が勝手な想像をしますと、やはり保健師さん、地域みまもり支援センターさんなりがこれまでやってきた活動の一つの視点が、ここにあると理解したわけです。</p> <p>しかし、例えば区民が見たときに、なぜこれだけが特別に立ち上がってくるのか、となると思います。それが例えば統計データなりで書かれているとか、あるいは麻生区にとってみると、実は子育てのところは抜けていて、福祉といっても、障害認定までいけば支援ができていても、その手前のところが全く抜けている。きっと子育て調査ができていないという実態があるということではなかろうかと思いますが、それは説明に書かれていない、ただ項目になっているわけです。</p> <p>こういうところが分かるように書いていただければ、私たちがボランティアをするのでも、子育てのほうをもっとやろうかという気分にもなりますし、何か羅列になっているところは、もし可能なのであれば、見直していただけたらいいと思います。</p> <p>それから最後、基本目標3の所ですが、一番下の基本目標の右側、具体的な取組の3番です。「地域福祉を支える関係者の支援とネットワークの強化」というところですが、31番、在宅医療に関する普及啓発の実施というのが、私も不勉強な面はありますが、この前も気になっておりました。</p> <p>本来はクリニックさんや訪問系の方、あとは病院とも連携し、地域の仕組み、医療と在宅医療との関係性みたいなものをもっと議論すべき時期に今、地域包括ケアは入っていると思うのですが、これは、麻生区では意外に進んでいない視点ではないかと思います。医療は医療で頑張る、福祉は福祉で頑張るというような、縦割りで進んでいるようなところを感じていました。</p> <p>それで地域福祉計画では何をするのかと見ると、在宅医療の研修会を年に1回か2回かやっている、という形になっているので、もう少し麻生区の在宅医療がどうあったらいいか、区民と一緒に考える場というものが必要じゃないかと思っております。この在宅医療に関する普及啓発の実施ということだけではなく、もう少し地域づくりをみんなで議論する必要があるのではないかと考えています。この在宅医療に関する普及啓発の実施ということだけで、提案に盛り込んでいただくことは可能ではないでしょうかということでございます。</p>
吉松委員長	いかがですか。在宅医療に関しては、多職種の連携ですとか職員講座みたい

	<p>なものを、医師会が在宅療養推進医の佐野先生を中心になさっていました。それ以外に何か事務局の方はありますか。この実施というのはそういったことですか。</p>
<p>依田委員</p>	<p>地域福祉計画は、かわさき保健医療プランと連携していますよね。ですので、在宅の医療を麻生区は病院で例えば支援していくのか。看取りや死をどこで迎えるのかという議論を、麻生区の住民さんがすべきだと私は思うのですが、その機運がなかなか出てきていないと感じております。私としては在宅の医療をより広める、より良い形で広めるというのはすごく大事な時期かと思うけれども、意外にそのテーマに関わって、お話をみんなでしたりとかする機会がこれまでにはないなというイメージです。</p> <p>医師会さんが「在宅医療を頑張りますよ」と言って普及されている取組への参加をおっしゃることは分かっています。しかし、これは共同のプラットフォームで議論をしているというイメージではなくて、それぞれの団体が頑張っているという図だと思うので、もう少し区レベルのプラットフォームで議論することがあったほうが、より明確な地域包括ケアにつなげられるんじゃないか。そう思っております。以上です。</p>
<p>吉松委員長</p>	<p>どうぞ。</p>
<p>事務局 (高齢・障害課)</p>	<p>高齢・障害課です。昨年度から在宅医療の推進ということで、市役所、区役所単位で、これまではどちらかという医師会さんとか在宅療養推進協議会、こちらのほうを中心とした普及啓発活動といったところとか、医療機関で使うつなぎ方の仕組みをシートとして作って、そういったものを病院間で活用したりといったところで進めて、そこに情報共有という形では入っていました。昨年度から区のほうは行政が中心で取りまとめて、在宅療養に関する地域課題とか、そういったものを地域から吸い上げ収集しています。</p> <p>そこは、今は、地域包括支援センターさんとかケアマネさんとかの介護・福祉関係者から課題の聞き取りをして、その課題を区の中で検討し、それを市のほうに上げます。また市のほうでも同じような仕組みの会議がありまして、その会議体に地域の課題が吸い上がっていく。そこで、市で解決すべきところと区の中で何か取り組みを進めるところというところで、段階的に取組を少しずつ進め、今は課題集約の部分をやっております。</p> <p>地域包括支援センターさんのほうがそれぞれの地域で圏域会議というのをやっていて、医療・介護の問題だけでなく、いろんな地域課題が吸い上がってきます。そのところも区役所の同じ医療介護連携を今は中心にやっていますけれども、それだけではない、いろいろな課題がその会議の中に出てくる仕組み、会議体の形式になっています。</p> <p>そちらの中で、これから区の状況と医療機関さんの活動を擦り合わせながら、一緒に進めていく段階となっています。その中でまた見えてきた課題を、市民の方と一緒に考えていかななくてはいけないとか、あるいはこういった普及啓発活動が必要かなというところが出てきたところを順次、このところで、普及啓発の実施ということで今までやってきたフォーラムとか、区役所のほう</p>

	でも普及啓発活動の講演会などをやっておりますので、そういった中でまた考えていく契機というか、そういったものを投げ掛けていきたいと思っております。以上です。
吉松委員長	よろしいですか。要するに在宅医療を担う、いろいろな職種の人たちに対しての会議で、そういう問題点を吸い上げはしているけれども、それは受ける側の区民の方には、在宅医療とはどういうものかということの啓発があまりないということですよ。
依田委員	<p>区民、医療資源、介護福祉資源が共同で、この町の在宅医療、あるいはどうやって死ぬのか、看取るのか、その辺りを議論して、作っていく必要があるのではなかろうかと思います。</p> <p>この間、ある病院の方が、「麻生区は関係病院さんがみんな機能分配して、グループで連携が取れるようになりました」と話されたので、麻生区で病院同士が連携するのですかということでお聞きしたら、「そうです」と胸を張られました。「あの病院は？ この病院は？」とお聞きすると、自分と立ち並ぶ病院さんとは病院同士で連携していないのです。ある病院さんを中心として、地域救急、2次救急、高度医療のグループにしたという話です。</p> <p>でも麻生区住民としては、それは麻生区のネットワークではなく、ある病院のグループができたというだけです。できればそこに入らなかった同等程度の高度医療の病院さんも、お互いにその議論の中に入ってやってあげたいと思います。でも今、このいわゆる部分的なネットワークでは、やっぱり地域包括ケアに力が入らないと思っています。それぞれがお互いを理解して、議論をして進んでいったほうがいいと思っています。</p> <p>その意味では、福祉は一生懸命に福祉のほうで課題を広げるんですけども、私はやっぱりチームケアで、関係する資源が関わった形で議論できることは必要なと思いました。地域福祉計画の中に医療のところは量的にも少ないので、もう少し何らか取り込んでいただきたいという思いで喋っております。</p>
吉松委員長	ありがとうございます。どなたか他にございますか。なければ時間もございますので、次の議題6について事務局からお願いします。
事務局	議事（1）ウ 第6期麻生区地域福祉計画策定に向けた評価指標（案）について ※資料3に基づき説明
吉松委員長	ありがとうございます。どなたかございますか。
村井委員	<p>一つを出すと、もうそれだけできればいいとなってしまうことだけを、避けることが一番大事だと思います。あくまで、たくさんの中の、可視化できる部分がこれであり、これだけを追い掛けるものではないということだけは、われわれみんなが共有できればと。その中の一つの指標としてということですよ。</p> <p>だとすると、もう1個だけ。事前に事務局と打ち合わせた時には思い付かなかったのですが、他にも、この推進会議によって評価するという項目が存在するのかと。いわゆる客観的評価と、どちらかというと定量的評価と定性的評価と、それらを含めた上で市・区民代表として推進会議による評価をもって、わ</p>

	れわれが進んでいると感じるどうかというのは、いわゆる指標としての扱いになるかと思います。これらのデータを持った上で、推進会議としての意見も踏まえた上で、最終的に評価していくというイメージですが、客観的指標としては提案のあった項目くらいかと思います。以上です。
吉松委員長	ありがとうございます。
事務局 (地域ケア 推進課)	<p>今、先生からご指摘いただきましたように、評価指標の一つの数値を伸ばすとかそういうことではなくて、参考に数字での合計を見ることによって、取組自体が効率的、効果的に進んでいるかというところの、確認の意味での指標として最もふさわしいものに近いのはこのような形ではないかということで、ご提案させていただいています。</p> <p>さらに、委員の皆様からの評価というような形のご意見をいただきました。市全体の考え方というのも今後は決まってくると思いますけれども、多分、区役所のほうでは推進会議の委員の皆様に対して、今後につきましては、私どものほうが自己評価なり評価項目を設定し、実際に取り組んだ実施結果をまとめたものを皆さんにお示しします。</p> <p>自己評価をしたものについて実際に取組が行われて、その結果、効果がどのような形になっているのかというところを点検していただく役割は、引き続きお願いしていく形になると思っております。</p> <p>また行政が評価したものを推進会議で評価する、3つ目の評価のうちの一つに位置付けをするというよりは、行政が区社協さんも含めて一体的にやった施策に対して、それぞれ自己評価としてどう考えているのかを確認させていただき、それについて点検を皆さんでしていただいて、意見交換をし、それをまた次のアクションに、翌年度の計画と施策につなげていくというようなサイクルで進めさせていただければというふうに考えております。</p>
吉松委員長	ありがとうございました。それでは次の議事（1）のエに移ります。
事務局	議事（1）エ 第6期麻生区地域福祉計画の構成（案）について ※資料4に基づき説明
吉松委員長	ありがとうございました。どなたかご意見、ご質問はございますか。
村井委員	<p>すいません。これは事務局との打ち合わせのときにも実はお話ししているのですが、3年ごとの計画なので、3年先にどういう状況になっているかの推計というものが、可能なものは出したほうが良いと思います。3年先のこういう状態に向けて、この3年間をどうデザインしていくのかということなので、ここで言えば、3の（2）と呼ばれる所の現況が、現況で終わるのではなくて、未来も含めた推計が出せるものは掲載した方がいいです。</p> <p>ただ推計は厳しいもので、「推計値を求める〇〇法にそのまま当てはめると、こういう推計値ですよ」程度の数字を出せれば、それでも無責任だと怒られてしまうのですが、それぐらいで許してあげないとあまりにも気の毒じゃないかと思っております。</p> <p>特筆すべきは3の（5）だと私は思っております。地域包括ケア圏域ごとの内容がきちんと整備されていくというのは、ひっくり返せば、その地域ごとの</p>

	<p>課題が見えるようになってくるということですから、より住民の生活に近い問題が地域ごとの課題として抽出できるような動きになってきております。</p> <p>まだ概要ということかもしれないけれども、地域ごとの課題がここから見えてくると思いますので、こういった圏域をつくっていくことはすごい画期的だなというふうに感じております。ここは6期の大きな肝だと考えています。</p>
吉松委員長	<p>ありがとうございました。続きまして、今の地域包括ケア圏域の内容について。議事（1）のオについて。</p>
事務局	<p>議事（1）オ（仮称）地域包括ケア圏域の概要（案）について ※資料5に基づき説明</p>
吉松委員長	<p>ありがとうございました。その他にご意見、ご質問はございますか。</p>
村井委員	<p>ここまでくると、後に残されたのは活用方法ですね。最大の課題であります。ここまでしていただいたのに、住民は、そして地域の団体はこれを見てどう活用するのか。それまで全部行政にお任せというのではなくて、一緒になってどうやってこれを普及させていくのか、どう活用していくのかということをみんなで議論したり、作っていかないと勿体ないと思います。地域の課題を整理して地域にお返ししていくというのが地域福祉の、私は大原則だと思っていますので、「では、どうしようか」ということを考える地域づくりをしていかないといけないと感じました。</p> <p>非常に貴重なデータですので、あとは更新頻度とか「ちいきのちからシート」で出てきたような情報も、「ちいきのちからシート」ではこの地域にさらにこういうことが意見で出ていますよというのが、出てくるかなと感じました。以上です。</p>
吉松委員長	<p>ありがとうございました。それでは続きまして、議事（1）のカについてお願いします。</p>
事務局	<p>議事（1）カ 第6期麻生区地域福祉計画 策定スケジュールについて ※資料6に基づき説明</p>
吉松委員長	<p>ありがとうございました。どなたかご意見、ご質問はございますでしょうか。</p>
村井委員	<p>すみません、話は戻りますが、先ほど依田委員さんからありました、子どもに関する取組がちょっと強めに出ているというところは、確かにおっしゃるとおりで、資料1-1の中に、もう少し子どもに対する手当が必要だといった内容が加味されていると、説得力が高まっていくと、改めて私も見せていただきました。1-1と今回のページ構成というか、重点項目の一覧の整合性を最終的にもう一回点検して、確認整理をしていく。</p> <p>おっしゃるとおり、子育て関係の取組が基本目標1の中にはたくさん入っているのですが、資料1-1を見ると、課題等としては子どもに関する記述が1~2カ所ぐらいしかないで、その辺りを少し充実させ、ここに力を入れるというのは何のエビデンスがあるのかといったところを整理していく。その根拠だけしっかりと示せば、納得してくれるだろう、むしろ力を貸してくれるだろうと思います。いかに分かってもらえるか、いかに事実としてそれが大事なのかということ伝えるのかということを最終確認していただければ、大変あり</p>

	がたいところです。以上です。
吉松委員長	ありがとうございました。
事務局 (地域ケア 推進課)	誠にありがとうございました。今、ご指摘いただきましたところの部分についても、おっしゃるとおり、子どもの施策をこういうふうに頭出ししているのは、どういう課題があって、どういう施策を区として進めていきたいのかというところを区民に分かりやすく示すことによって、その他の施策の重要性なりが皆さんにご理解いただけるというふうに思っております。書きぶりの中でいろいろ丁寧に対応させていただければというふうに思っておりますので、よろしくお願いいたします。以上です。
吉松委員長	ありがとうございます。それでは次の報告事項について、事務局からよろしくをお願いします。
事務局	議事（２）〔報告事項〕 （２）地域包括ケアシステム推進に向けた取組について ア 高石地域包括支援センター ※会場前方のスクリーンで動画を投影し、資料７に基づき説明
吉松委員長	ありがとうございました。どなたかご意見、ご感想などございますでしょうか。
依田委員	高石包括の取り組みに関しまして、高石は私の法人のほうで受託をして対応しております。とても困ったのは、コロナ禍において、今回の地域福祉計画が推進しようとしている、助け合い、支え合いの関係というのが本当に縮こまってしまったということです。どうやって動いていいか本当に分からないという現況で、実はこの動き出した方々を見れば、結局は人と人がつながらないといけない活動でした。一步踏み出した活動なので、閉じ籠ってはいできない活動です。ですから、それをやる勇気と意欲のある方たちが最初に動き出して、それを広げたという格好になっています。 その間にすごく感じていたことは、確かに安全安心で社会的ディスタンスを守るのは大事ですが、地域の顔の見える関係を維持しなかったら、やはり本当になくなってしまふんだという、その恐ろしさでした。ですので、今回、区長さんからも表彰されたということは本当に心強く思っております、とてもありがたいことだと思っております。 実際にはタウン紙に載りましたら、お写真を撮るときにマスクをしていなかったということがありましたので、お叱りのメールなども地域にはいただくような、そんな状態でした。だけど、そのときに意欲を持って活動された皆さんがいらっしまったことで、本当に良かったと思えました。以上です。
吉松委員長	ありがとうございました。どなたかございますか。 特になければ、次の麻生区民生委員児童委員協議会の取組について森委員より。
森委員	議事２〔報告事項〕 （２）地域包括ケアシステム推進に向けた取組について イ 麻生区民生委員児童委員協議会（資料８）

皆様、こんにちは。民生委員児童委員協議会は3月以降、現在も各イベント、研修会、会議会など、中止や延期の状態が続いております。ただ、6つの民児協の実施事業という形の定例会は、こちらのほうは三密、それから安全予防を守って、時間短縮で実施をさせていただいております。委員同士の情報共有はこのところ大切になっておりますので、注意しながら、必要な活動を進めているところでございます。

緊急事態宣言の前後に、全国民生委員児童委員協議会連合会長と市の民生委員児童委員協議会からの「人と人をつなぐ私たちの強さ」というメッセージと、訪問時の対応は極力避け、手紙や電話、メールを活用してつながりましょう、そういう声掛け世帯で気掛かりな方の確認をする場合は地域のネットワークを活用し対応しましょう、等のガイドラインが発令されまして、それを委員全員で共有いたしました。その後の自分の活動も挟ませていただきながらのご報告になるのですが、よろしく願いいたします。

関わりの一つとして、食事作りをボランティアさん有志が立ち上げて、それを地区社会福祉協議会が支援するというものがあります。「ながら会・会食会」と、お弁当の配食サービスがありまして、どちらも民生委員がお弁当のお届けをするということと、「会食会」はお付き添いのお手伝いをいたします。それに関わっているところですが、こちらは、なかなかつながりを持ってないということもある方たちがいらっしゃいますが、この「ながら会」委員さんたちとか、お弁当を取っていらっしゃる方たちに対しましては、民生委員としてはどちらも安否確認と現況のお伺いができるということで、とてもつながりの大切なツールになっているものでございます。

しかし、まず4月に事業の中止連絡が入りまして、私のところには22名の方がいらっしゃいますので、そちらの方にお手紙をポストイングいたしました。そうしましたら数名の方がかなり悲観的になられ「どうしよう」という返信がまいりましたので様子を伺って、新百合ヶ丘駅界隈のテイクアウトができるお店のマップを集めて、あとはいろいろな配食業者さんのちらしも集めてまいりました。それを皆さんにまた再配布いたしましたら、やはり、情報が入らずとてもそれが不安だったので、それを見て少しほっとして、「安心しました」というお喜びのお電話をいただきまして、すごく嬉しかったです。そういうこともありました。

その後、5月に入りましたら住民の方からの苦情相談が1件、安否確認が1件入りまして、いずれも認知症の方に関わるものだったんです。

苦情のほうは独居の88歳の女性の方ですが、その方のごみ出しが、曜日も選別も誤って、毎日出されるようになって、近所が大迷惑していると、かなり立腹された苦情が入ってまいりました。それで地域包括支援センターのケアマネージャーさんに連絡しました。何とか考えましようということで、最終的に川崎市の「ふれあい収集」に結びまして、何とか解決いたしました。

ごみ出しはとてもシビアな問題で、ご近所からの苦情というのは今までも

二、三度ありますけれど、そのたびに近所の皆さんの力で何とか助け合っていないかと思ったりします。その辺がこれからの認知症に優しいまちづくりとして、推進がなされていけばいいのかなと思います、難しいですね。

それとやはり認知症の方ですが、これはマンションにお住まいの方です。1階にお住まいで、非常ベルがあるのですが、それを、全然認識がない状態で押されてしまい、そのままの状態で鳴りっ放しになってしまいました。それで多分、外部の方が通報されたのだと思いますが、警察、消防が入ってこられました。実際には、火事とかガス漏れとか、緊急の事態があるということで押すのですが、停止ボタンを戻すということが全然分からなかったみたいです。それで回ったのですが、どこも異常がないわけです。火事でもない、ガス漏れでもない、倒れている人もいないということで、一軒一軒、1階でしたので十何軒回りましたが、どこも何も異常はないということでした。

結局、家に入って非常ボタンを皆さんに確認してもらったら、そこのご主人が認知症で、ご夫婦ですけれども奥様も同じような状態だったんです。なので、入って初めて「あっ」と気が付いて、それで慌てて止めた、ということでしたが、以前、訪問したときにはそんな情報ではなかったのです。だからこの期間に、そういう方が増えていくのかなと思いました。

そんなことがありまして、こういう状況の変化にやはり気付かされて、その後に日中の見回りと声掛け世帯の見直しをいたしました。お手紙を書こうと思ひまして、40世帯ぐらいでしたけれども手作りの便箋を使い、お手紙と、ちょうどその頃はまだマスクが非常にないと騒がれた最初の頃だったので、クッキングペーパーを折り畳んだ簡単なマスクを作りまして、それと一緒にお手紙をポストイングいたしました。

そうしましたら、感謝のお電話とか絵はがきとかをくださった方がいっぱいいらっしゃいまして、すごく自分も感動いたしました。思うように活動できませんでしたので、大変もどかしくも思っていましたけれども、その時に、つながる強さみたいな心持を改めて実感する経験でした。

その報告を会長会でいたしました。先頃、例年実施している民生委員児童委員の日、活動強化集会というのがありまして、そのPRグッズがいろいろあります。それを使って活動しようと思って、皆さんのお手元にありますけれども、PRカードと、ウェットティッシュ、ボールペンが入っています。このグッズと、こちらのPRチラシがありますが、これを一緒にポストイングしましょうということ。そうしましたらやはりすごく反応がありました。とてもいい関わりがうまれ、情報を得ることもできたということで、これからの活動の自信になったという感想も出ているようです。

先ほど森田課長からお話がありましたが、7月6日に「新型コロナウイルスの対応に係る市長との意見交換会」がありました。そこに区の民生委員児童委員協議会長が出席しまして、この取組の報告を発表しましたら、大変お褒めの言葉をいただき、会長がとても感激したというようなことがありました。

ということで、まだ先が見えない日々ですが、加えて熱中症がかなり懸念さ

	<p>れてきましたので、これからも地域にアンテナを張っていないといけないなと思いました。あとは、地域の見守り態勢づくりを本当に推進していく必要があるのだと感じるところでした。ありがとうございました。</p>
吉松委員長	<p>ありがとうございます。どなたかご意見、ご質問はございますか。</p>
村井委員	<p>マスクプロジェクトはできれば多くの広がりを見せて行ってほしいです。他の地域でもどんどん広がっていったらいいなと思っております。ロコミでいうのも含めて、みんなで苦労とか、やってみればいいとかいうのを、これをきっかけに「聞いたんだけどさ」と言って、ぜひ皆さんが広げていただけてほしい、とても素敵なプロジェクトだと思っています。</p> <p>それから民生委員児童委員で作っている、このチラシです。自治会の掲示板の全ての場所に貼ってほしいなと思っています。実は昔から、区社協さんも、民生委員さんの活動を地域の人に知ってもらいたいと思っているのですが、ポスターなど、客観的に見えるものが少なかったのです。何となく名前は聞いたことがあるけれども、何をしてくれる人、どこまで何を頼める人だか分からないというケースが続いていたのです。これは非常によくまとまっているし、民生委員児童委員協議会連合会を出しているしっかりとしたものなので、町会・自治会の掲示板に貼ったり、回覧してもらおう機会が、ぜひ進むといいなと思いました。</p>
森委員	<p>ありがとうございます。</p>
村井委員	<p>とてもすてきな活動を聞かせていただいてありがとうございます。</p>
吉松委員長	<p>ありがとうございます。私からもいいですか。</p> <p>ごみ捨ての認知症の方の情報などはどういう経緯で民生委員の方に回ってきたのかということ、認知症であればまた同じことが繰り返されるかと思えますけれども、その後はどういう対策を取ったのかということをお聞きしたいです。</p>
森委員	<p>はい。1年に1回ひとり暮らし等高齢者実態調査というものがありますが、毎年75歳以上の後期高齢者の方が対象になりまして、その中で既に介護保険サービスを受けていらっしゃる方は対象外、あとは74歳以下の方との同居世帯も対象外ですが、区役所のほうから対象者のリストが上がってまいりますので、それに私たちが訪問して、「初めまして」ということで、それから始まるわけですが、そこでいろいろ聞き取りをさせていただきます。簡単な設問があるわけですが、大事なのは自分の今の生活状態とか、身体の状態とか、そういうことをお聞きします。</p> <p>あとは緊急連絡先の情報を提供していただくのですが、それもやはり大切な個人情報ですので、皆さんお一人ひとりに署名欄がありますので、そちらのほうに書いています。その上で、この情報を、自分が見守りの状態になったときに民生委員、社会福祉協議会、行政に対して開示していいですかという同意欄がありますので、そちらのほうに記入してもらいます。まず「いいえ」という方はいらっしゃいませんけれども、ただ訪問するときに「こういうことで参りました」と言いますと、そこで拒否される方もいらっしゃいます。そのときは</p>

	<p>「大丈夫ですよ。」と無理はいたしません。</p> <p>一応、それぞれパターンは1ヶ月に1回行く、1年に2回行く、などABCで各民生委員の皆さんがそれぞれ決めているのですが、会っている方は3ヶ月に1回ぐらいでしょうか。そうして訪問していますと、だんだん向こうのほうから「ちょっと相談があります。体が、腰が痛くなって、掃除するのも大変になってきたから、手すりが欲しいのでどうしたらいいですか」という、介護保険を使いたいとまず相談が入ります。それでお伺いして、どの段階で、どんな状況ですかということをお伺いして、「そろそろ介護保険が必要だからつなげてください」と言われましたら、地域包括支援センターにつなげて、一緒にそれから動くということになります。</p> <p>私たちは専門職じゃないので、この方は認知症とか、ある程度は会って変化に気付くときもありますけれども、私たち自身は決定付けができませんので、必ず地域包括支援センターに入ってもらう、ということでおります。</p>
吉松委員長	<p>ありがとうございました。どなたかございますか。特になければ、次の議事(3)その他について事務局から。</p>
事務局	<p>(3) その他 ※策定スケジュールについて説明</p>
吉松委員長	<p>どなたかご質問はございますか。特にないようですので、これを持ちまして本日の議事については終了とさせていただきます。</p> <p>ここで進行を事務局にお返しいたします。委員の皆様スムーズな会の進行にご協力いただきましてありがとうございました。</p>
事務局	<p>閉会</p> <p>吉松委員長ありがとうございました。</p> <p>それでは、本日の会議はこれで閉会とさせていただきます。本日は誠に忙しい中、ご参加いただきましてありがとうございました。今後どうぞよろしくお願いたします。</p>